



百人一首比登与俄哆里卷之二

目錄

喜撰法師 歌譯

喜撰の歌三首より二話

宇治山古蹟の話

小野小町 歌譯

衣通姫の話

深草少将の話

禪丸 歌譯

博雅三位流泉歌木曲の話

木幡の盲僧の話

矢野篁 歌譯



宇治郡と許の國より一話

謀曲よ小町の事何れの話

禪丸盲人より一話



皇城帝台樂天の詩奴以く皇の御試したる話
皇遣唐使と辞す話
足利學校の話
皇の歌字盡の話

僧正遍昭歌譚

良峰宗貞五條の女の許すゆりの話

孟昭小町贈答の歌の話

陽成院 御製譚

釣殿の話

帝馬河ぬきせたる話

時康親五十四年平そ即修したる話

河原左大臣 歌譚

融帝位と与す話

光孝帝遍昭と七十の賀を賜ふ話
奥羽と東賊乱と起す話
帝狂乱と人合御宴の話

融帝位と与す話

河原院の話

都の位寛の話

帝釋奠の礼をひひなす話

融帝位と与す話

融代靈寛平法皇と惚す話

光孝天皇 御製譚

渤海國の王文矩親王達の相と看話

帝町人共は債と還したる話

中納言 行平 歌譚

新羅國人肥前と冠す話

行平須磨と位話

在原業平朝臣 歌譚

業平の家の話

藤原敏行朝臣 歌譚

小野道風表紙上の話

伊勢 歌譚

行平穀物運漕とゆり話

繪とぬの壘と女歌とむ話

伊勢物語の話

敏行能筆一切経紙手話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

伊勢物語の話

枇杷左大臣仲平伊勢通ひり活
 伊勢の所の桂の家の話
 伊勢家板賣の家の話
 元良親王の歌
 親王母色の話

宇多帝伊勢板賣の家の話
 伊勢伊勢の家と勅使の話
 親王奏賀の事と伊勢の家の話

濃茶の初昔は名もあ。
 元よりけし。揚をけし
 元より。かくもし。
 元より。かくもし。
 元より。かくもし。
 藤貞幹ハクム
 カシは候あも。
 好古小孫はせ
 たも。是れ文
 々も伝てり。
 終つて名も



此法めのもろ系譜
 書入ししころれ
 一のいこい説或ハ
 橘の奈良丸の子
 といひ又紀名虎の
 子こころいれり
 ころなまこ元也
 貫之の古今の序
 宇治山の僧喜撰
 とはるるもこれ
 考ふべし
 いふもふれ
 考ふべし
 頃の人
 のよ

喜撰法師

ふいほまの
 まじら
 りか

古今集難下題志し
 都より辰巳の方
 山の名も世

人

喜撰法師の話

山城國宇治の郡のい應神天皇第四の所
 又末の所と菟道の若郎
 の人と造大
 郡の名はけ
 山とら山
 つけり宇治山
 ふて
 かく殊は



は撰集小野小町
名乃くれば歌の御法

いそのわ

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

つげの
〜

〜

〜

〜

大和まは
〜
清水寺
〜
お侍の
大徳
〜
通昭を
〜
大和む
〜
かたて
〜
あむ



いよのうにびりあを弟姫に侍婦白皇后の所よりと畏中より
たましくまかりたまはす帝より七度のせも御園くわがしむる
たまはるるわを帝侍らしむしたまはすおの使に舍人中の馬
賊津の使にしらすの初に弟姫の御所より馬賊津侍と
しけたまはるる先私宅に御座と社のうち所より坂田より
弟姫の家の庭の中平伏しと申の御所より弟姫のたまはる
天皇のみまの御所より御所より御所より皇后の御所より
まめいぶらんを御所より御所より御所より御所より
たすもまおを御所より御所より御所より御所より
しけたまはるる御所より御所より御所より御所より
きんも心定まひし御所より御所より御所より御所より
なすも御所より御所より御所より御所より御所より

も御所より御所より御所より御所より御所より
しとくし御所より御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より御所より
失いせん御所より御所より御所より御所より御所より
津より御所より御所より御所より御所より御所より
志より御所より御所より御所より御所より御所より
系より御所より御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より御所より御所より
皇后の御所より御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より御所より御所より

江以差日
 在五中
 時為時
 伴匠出
 家お構
 其後為
 生營為
 陸更向
 八十態求
 小野小町
 尸
 この一はた
 のちの流に
 るまよふおて
 おしげれき
 がひりり各
 異用を記
 せしもの



世業平に
 ちまふて
 うけせし
 むすめは
 女おふは
 やいふ
 袴衣の
 今に
 異
 此
 過
 昔
 依
 ち
 ち
 け



此の... 又町雨色の...

...

...

長崎の... 雄長老の狂言百首と...

附録... 小町の家集は...

...

...

...

...

蟬丸

...

...

...

後撰集... 逢坂の... 大津の... 建坂の...

姓氏... 古説は仁明天皇の時の道人... 髪とすすせの... 仙人... 帝の第四の皇子... 盲人の... 其の... 下...

これハ関がらく来り法はつひに世に傳ふる事なれど
のさくもれてハ志すもくもあはぬ人々もあはれり
とてあまの國に傳へしはあはれり

蝉丸の話

宇多天皇の所子式部敦實親王に管絃の道と好ま
ましし其藝は精くおこなぬ中も琵琶は好ま
みけり流泉啄木の曲は他とやれしは秘して人々に
けりしは蝉丸は彼親王の雑色なりしは琵琶は好
りし親王の強せしは流泉啄木の曲は好ま
るのよは強けりしは蝉丸は彼親王の雑色なりしは
かくおこなふ事なれりしは蝉丸は彼親王の雑色なりしは

逢坂の舞のほりしは流泉とほりしは琵琶と
強しはひく樂はれりしは平賀りしは流泉とほりしは
しはひく樂はれりしは平賀りしは流泉とほりしは
本の曲は博雅の位はは他はは他はは他はは他はは他はは
親王の所子に皇太后宮の大夫はは他はは他はは他はは
さしは博雅もいふ琵琶の上はは他はは他はは他はは
うけははは本備ははははははははははははははははは
りははははははははははははははははははははははは
えははははははははははははははははははははははは
まははははははははははははははははははははははは
まははははははははははははははははははははははは
まははははははははははははははははははははははは

所即位の頃皆病なりやもすれと泰因やおうしし時帝殊
 憐れたまひなむ勅使を遣はされ錢穀賜はる仁寿二年十月
 其家一子と後を授けしむるに寵遇はる五十一日と書
 らしむる管正平生又母を孝心保く家りしむる者一子と書
 とりぬす親族朋友のあふ我禄をふからむと書しむる
 常々文書好む和歌好む一子と書しむる
 書好む義之献之の風ありしは時の人と書しむる
 初め太宰府に在りし時唐人沈道固鴻臚館と書しむる
 きりし詩以て唱和す其才の富貴なりと書しむる
 鴻臚館と書しむる外此の人我國に貢と書しむる時其使者を
 待す館なり

俗名良峰宗貞
 又安世桓武
 天皇の弟と云え
 曆二十年良峰と
 姓と云ふ宗貞
 貞は仁明天皇の承
 和三年に授五位下
 左左坊佐十二年位
 前介並左近将也
 持し因て良と云
 といふ僧なりて
 遍昭と号す又良
 僧正とも花山の傍
 といふ所なり
 法らの又し

僧止遍昭

あまのりせそのこころ
 かなしきあはれ
 かなしきあはれ

古今集雜上五節のあはれと云くよめ良ぬやうと
 には五節のあはれは毎年十月の中の日のあはれ
 辰の日は四日のあはれ内裏に儀式は辰の日は
 この家へのいも男あむすあを撰むと云くあはれ

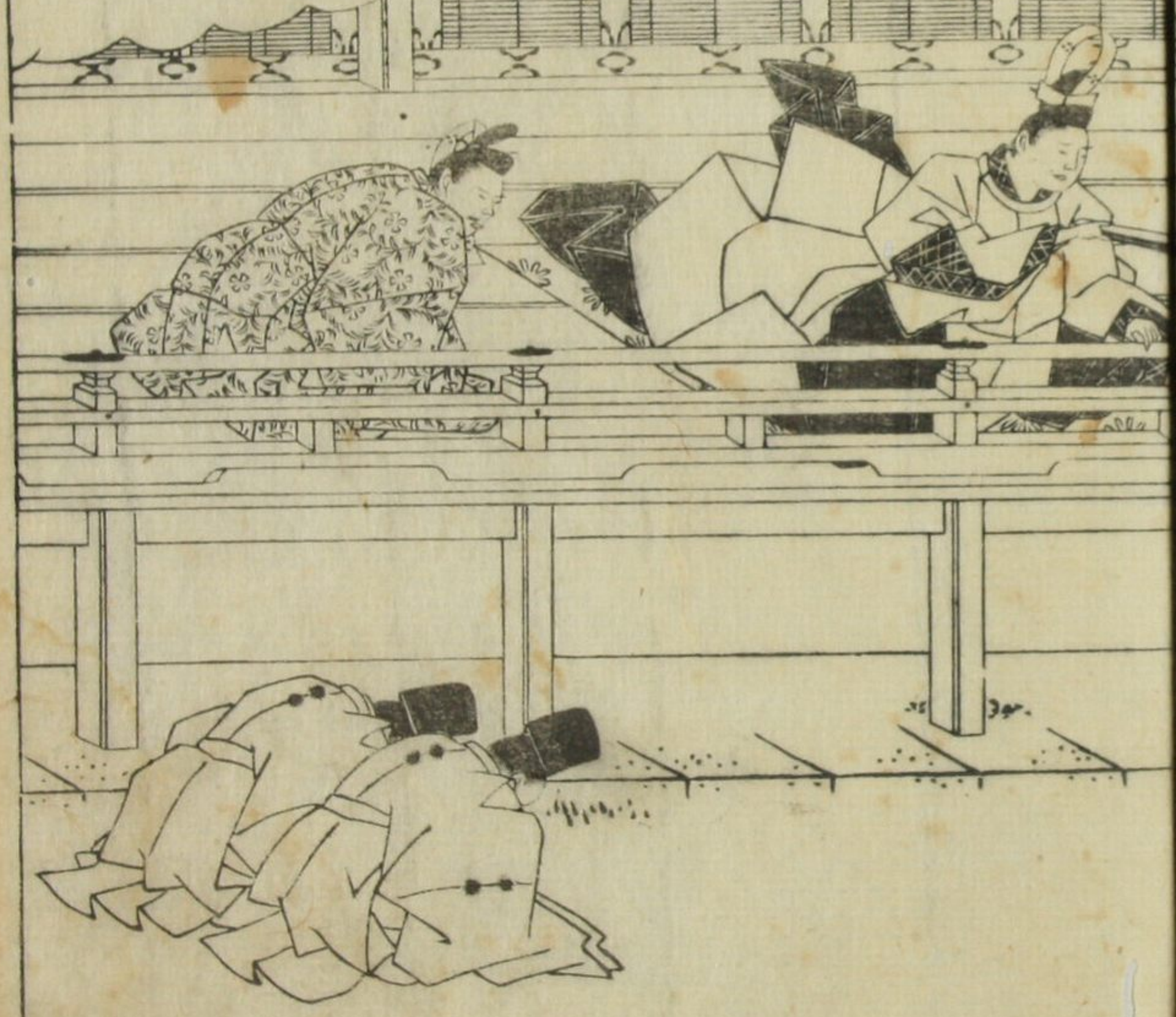
十一年... 御諱ハ貞明清和
 天皇第一の皇子
 所田ハ贈太政大臣
 長良分の女皇女
 后宮高子ト申別
 二余の右の所
 是右京基経公
 の妹ガ

陽成院

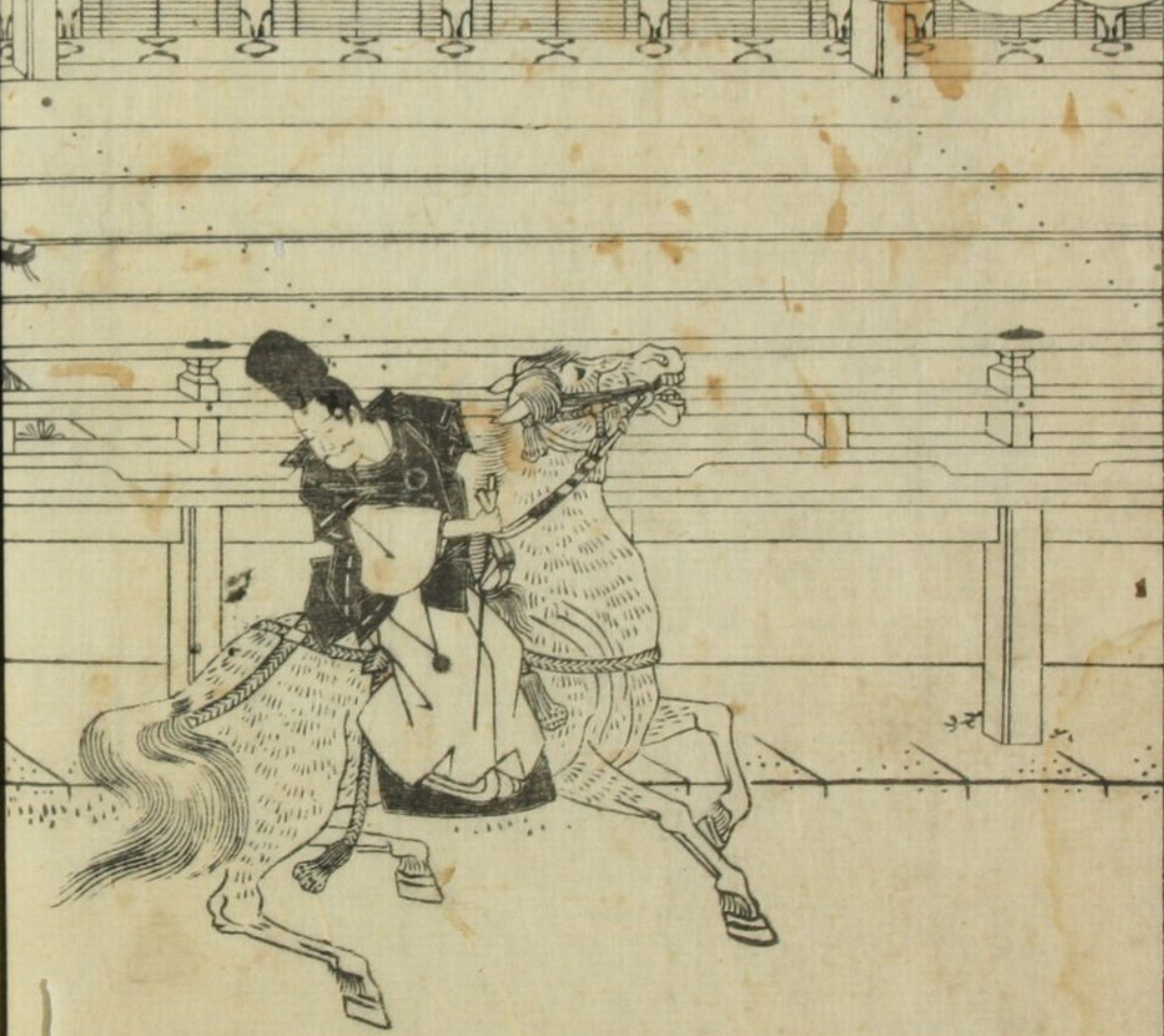
けいせいのの
 れいごの
 御

後撰集... 釣殿の院... 皇子内親... 中親...

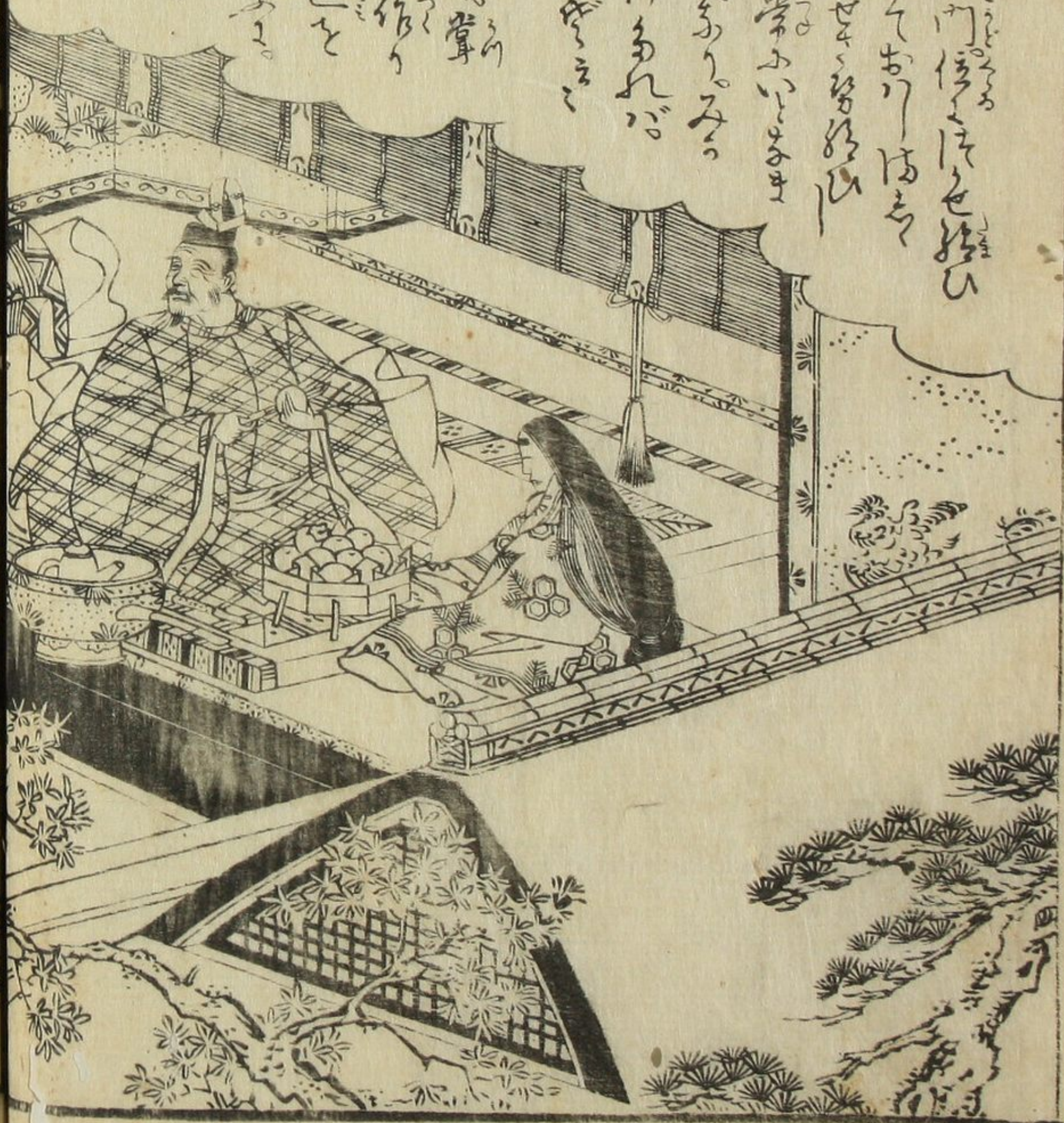
架紘
 依もまき
 方まひ
 かしほや
 けり
 暮る
 雀文に
 ふし
 位と
 尖者
 をま
 室に
 伊用
 せ
 亞
 延
 し
 子
 だ
 し



陽成帝十
 家
 侍位に
 見せ
 た
 政を
 授け
 ら
 帝
 馬
 且備
 心直
 め
 小人
 と
 道
 づ
 け



くれくまに
 子孫の世に
 昔より人としておるは
 時をばなごころ
 をたはらふ
 せまひくふ
 さまよひ
 思ふとつと
 漢孝文帝
 て
 かんて
 百金
 中
 十



光孝帝
 大位
 光孝帝
 其の
 子孫



父の按察使富士
 磨ハ鎌足公の孫武
 智磨ののの三代
 実録仁和二平
 月後六位上左兵
 衛權佐右近少将
 轉す一母ハ
 紀名虎のむすめ
 業平の母婿
 付

藤原敏行朝臣

俊のはろき
 さや夢のしひ
 らん

古今集恋二ノ寛平の所時きん
 寛平の字多天皇の年号
 其時時代
 殿
 温子の所
 秋のころ

のたのいび
 人のい
 ちのい

藤原敏行朝臣の話

村上天皇
 醍醐天皇
 道風
 空海
 凡華
 敏行
 敏行の
 敏行の
 敏行の

曰く右兵部督敏り不津まぐ人のあけりる経隊らさし書け
 清書の料紙をけしけしとて文字隊りひおしと料紙を市
 紙ふれおらさし其文字をけしけしとて小黒大河の
 敏行のしらのしとけりしとておしとておしとて
 一条権園の木朝語園は敏り死し獲けしな一切経を目筆
 早筆九人ありしとて

ち伊勢守純隆仁
 和の頃ふけし
 伊勢守
 名字
 皇子院の白皇子
 生きたりけり
 て伊勢の所息不
 せの所

伊勢

伊勢は海に
 ありて
 難波の海

新古今集悉くは伊勢守の
 難波の海にありて
 ありて

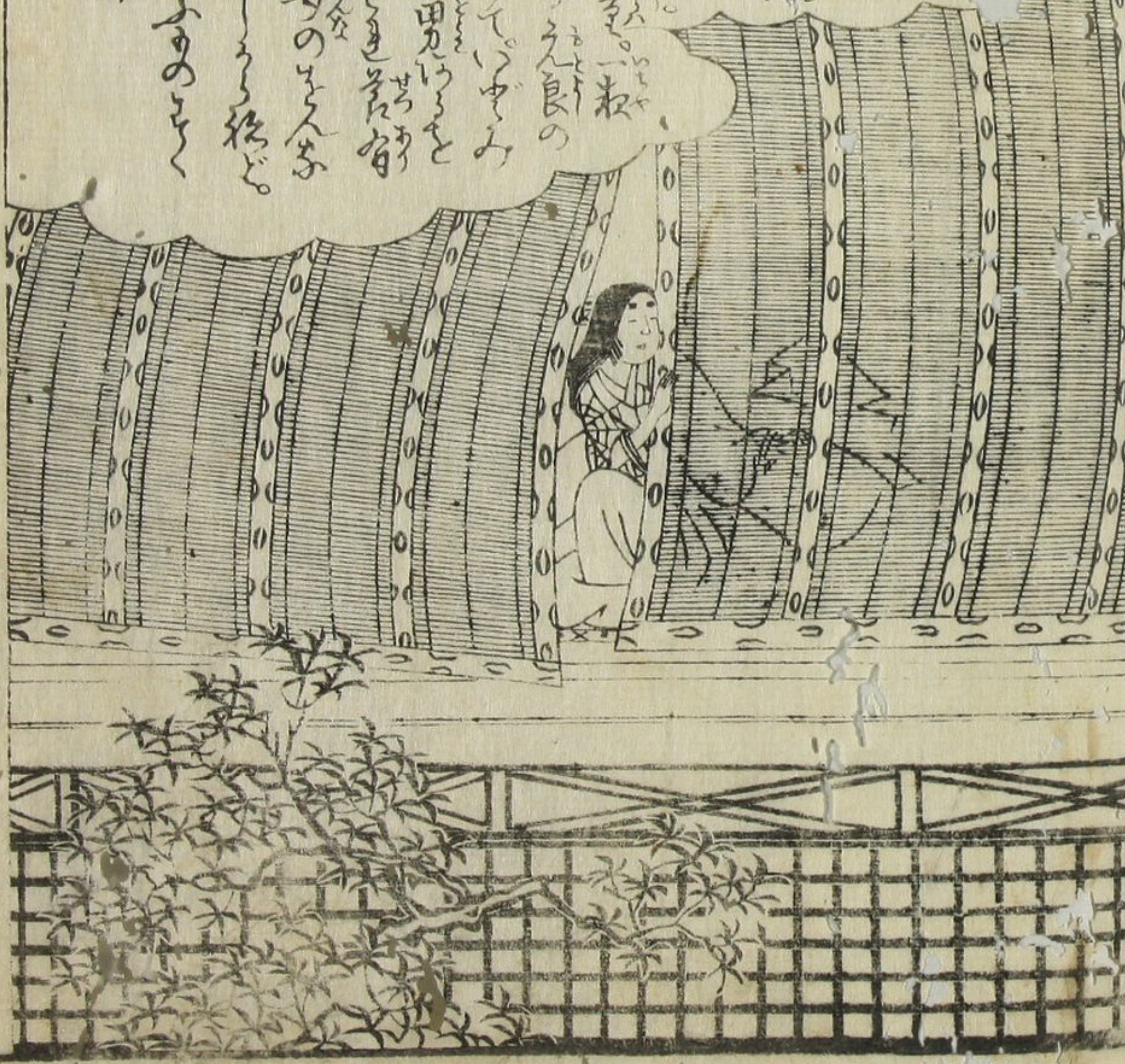
予はぬりしむく申す候すまは伊衡の河ふりて
殿上のすのこゝろに御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは

ちちちしすきまはまはまはまはまはまはまはまは
帝をり候しとまはまはまはまはまはまはまはまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
世もあらまはまはまはまはまはまはまはまはまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは

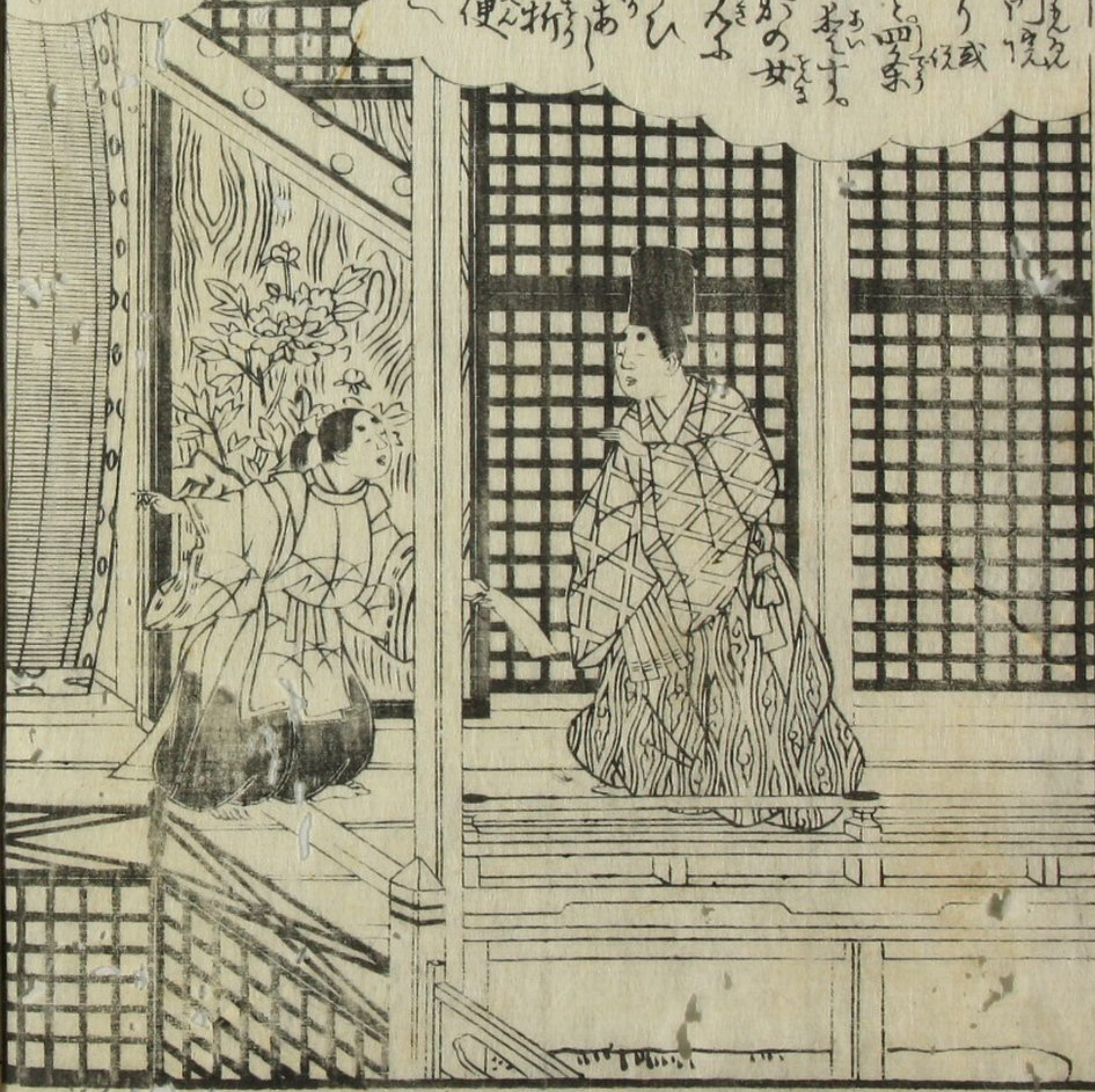
たうま家ハ其らす川の園もてててててててててて
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは

御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは
御持すまは御置くと御持すまは御置くと御持すまは

右黄門の中納言に
 未法無と云はば
 乃見おしめらる
 珠小良の官中
 然に枇杷屋の女
 親の
 たまへ
 あり
 とい
 や
 か



右府の来りか
 舟
 かくは華経の方便
 品
 右府の
 舟
 かくは華経の方便
 品



いませにひりりな彼女男は...
いませにひりりな彼女男は...
いませにひりりな彼女男は...

女...
女...
女...

今...
今...
今...

つ...
つ...
つ...

大...
大...
大...

い...
い...
い...

ま...
ま...
ま...

さ...
さ...
さ...

あ...
あ...
あ...

し...
し...
し...

あ...
あ...
あ...

日...
日...
日...

ま...
ま...
ま...

ま...
ま...
ま...

百人一首
登子俄
哆里卷二

